

Die (友情) Freundschaft

事務局：
〒010-1632 秋田市新屋大川町 12-3
秋田公立美術大学 野村研究室内
<http://www.jdg-akita.org>
(018)888-8110
nomura@akibi.ac.jp

来し方そしてパッサオ

副会長 野口 裕子

あらたまの年の始めの御寿を
謹みてお慶び申し上げます

私がドイツと関わりはじめたのは 1967 年 (昭和 42 年)、秋田市に定住してからのことでした。1970 年頃だったか、夫が「国家間プロジェクトである日独青少年交流指導者セミナーに参加する資格試験に応募する」と。秋田県から合格者はこれまでに無く、しかも大抵は「官」。「民」からの例を見る事は無いとかでしたが、論文・英語での面接を受け無事渡独。日本の青少年 30 名を引率し、ドイツの様々な都市に滞在しながら、約 1 ヶ月間の日独文化交流活動を推進。それからと云うものドイツ熱に罹患し、受入れやお世話など世界が広がっていったのでした。

秋田市在住のドイツを熱愛する親独家・喜多川明氏、神田金一諸先生達との親交も深かまったり西ドイツ大使館との繋がりも頻繁でした。確か日独 5 周年記念行事として、ドイツ大使閣下ご臨席の下、竹屋茂子さんのピアノリサイタルを県民会館にて開催、2 階席まで満席の盛況でした。会長は代々、時の秋田大学学長で、大使館書記官達も度々遊びにお出になり忙しくも楽しい時代でした。書記官の中には教育テレビ「ドイツ語講座」に毎週出演のヤンゼンさん、彼は本国から 10 代のご息をわざわざ呼び寄せて秋田を見せる等の秋田好き。又、お名前は失念しましたが、碧い瞳の彼は箏の演奏を聴いた後、我が家の床の間の掛け軸を中国語で読み上げ、続けて英訳して下さるのでした。来日して間もなかったらしく日本語はアウト。ところが翌年広尾でお会いした時は流暢な日本語。全く驚き感心するばかりでした。まだまだ書き切

れませんが、この胎動期を経て高田氏が秋田市長就任後、秋田市に事務移行となりました。

1978 年、ドイツの人口 5 万人のパッサオ市と人口 20 万人の秋田市の文化度が釣り合っているらしく、姉妹都市話を立ち上げる気運が秋田市側に有るが、官公庁で結ぶ前に民間、しかも文化の世界から、まず交流を実行し、盛り上げねば・・・という事になり、秋田市文化団体連盟として寺田九空会長を団長に、私達会員、高田景次市長と夫人、日独協会会長九嶋ご夫妻、濱之屋のあんさん他で出発。7 月 6 日、パッサオ市のホテル“シュバイツァーオクシェ”にて秋田市長主催の昼食会。次の日は大ホール“ニーベルンゲンハルレ”にて演奏会、満員の聴衆の中には近隣に住む日本人も多勢お出下さり、終了後は楽屋の部屋に多勢つめかけて来て嬉しい悲鳴、日本で経験する事の無い光景や万雷の拍手には感動でした。終了後は、パッサオ市長ハンツ・ヘーブル氏主催のパーティには姉妹都市成立にご尽力頂いたカール・F・ツァール博士（彼は高田市長と無二の親友で哲学博士、日本では文学博士）もお出下さり、素晴らしい会でした。その後、何団体か訪問なさり、姉妹都市結成。現在は、皆様のお力とお心により秋田市企画調整課の大きな器の中で姉妹都市交流が成就しています事、夢のようでもあります。そして、先頃新聞紙上に潟上の鈴木氏の率いる子供合奏団が生き生きと活動している姿が報道され、この上ない発展と嬉しく存じながら筆を置きましょう。

皆様、今年もよろしくお願ひします。



2016年8月1日～14日まで、「秋田市-パッサウ市青少年スポーツ交流事業（主催：秋田市体育協会）」が開催されました。パッサウ市青少年スポーツ交流団（E. テーガー団長、総勢14名）が来秋し、市長表敬訪問、市内文化施設見学、スポーツ（バレー、弓道）交流などを通じ、交流員はじめ市民の皆様とも友好を深めました。会員の皆様からはホームステイや交流員として多くのご協力をいただき、心から感謝申し上げます。今回は、交流イベント全般の通訳を担当された高田真生さん（会員・東京在住）と、秋田市交流員として参加した玉利みゆきさん（秋田公立美術大学2年生）から、交流の様子や感想などを寄稿していただきました。

- * - * - * - * - * - * - * - * - * -

「秋田—パッサウ青少年スポーツ交流日記」

会員 高田 真生

8月1日： 自宅（東京都清瀬市）を朝早く出発し、成田空港に向かった。空港で1時間ほどパッサウの御一行を今か今かと待っていた。そして、ついに登場！皆疲れた顔をしていたが、物静かで品があり、アメリカ系の若者が行き交う中、明らかに違う彼らの雰囲気、やっぱりドイツ人が好きだな、と思う。まずは自己紹介をし、今から始まる彼らとの2週間にワクワクした。まだ出会ったばかりなので、皆よそよそしい感じだったが、お昼を食べて、リムジンバスで羽田空港へ向かった。全員1時間グーグー寝ている中、今思い起こすと、最初からずっとカメラのシャッターを切りっぱなしのルーカス副団長が印象的だった。羽田空港に着くと、体協の古川さんが待っていて、ここから「秋田—パッサウ青少年スポーツ交流」がいよいよ本格的に始動だ。久しぶりに聞く古川さんの秋田弁に、私も糸井さんもとてもほっこりとした気分になった。でも、こんなに大変な長旅をして、パッサウから秋田に来てくれるという事を今回の交流で初めて実感し、それだけでとても感動してしまった。

前回の12年前と明らかに違うのは、青少年たちが全員スマホを持ち、常にいじっていることだった。ドイツの子供も日本の子供も変わらないなあと思った。

8月2日： その日の市長表敬訪問は、渋谷さんにお任せし、私は、ウェルカムパーティーから参加した。今回は、フェイスブックを通じ、

秋田に住む高校時代の友人達にホームステイ受け入れや交流員に心当たりがないか声をかけたところ、大変有難いことに、その関係から4軒のご家庭がホストファミリーになって下さり、2名の交流員（高校生）を紹介してくれた。そのお陰か、若い世代の協力者が増え、パーティーに小さい子ども達の姿が見られ、とても微笑ましい光景だと思った。パッサウからは前回と同様、余興のフォークダンスでは日独・老若男女問わずのダンスの光景に、思春期真只中の私の息子の姿も見られ、大変嬉しく温かな気持ちになった。

8月3日： 朝から秋田城跡を訪ねる。新しい資料館が建ったという事で、正直なところ、全然期待していなかったのだが、知らなかった秋田の古代史実に、本当に驚いた。何と、奈良時代の主要3大都市は、平城京・大宰府・秋田だったのである！！それを聞き、初めて日本に来たパッサウの子たちは、皆口々に「秋田ってすごい町だね！」と言っている。最初に、秋田に対してそのような好印象を持ってくれて、とてもラッキーなスケジュールだったと思う。何もない秋田城址跡だが、皆熱心にガイドさんの話に聞き入っている姿は、流石だった。午後は県立美術館へ。ドイツ組は、それぞれ1枚の絵につき20分程かけ、その絵について討論しながら見ている。15才のやんちゃ組も、皆そのように美術鑑賞しており、ドイツという国の教育の奥深さに、改めて感心した。28才の彼は「1枚の絵に付き、その絵の前で1曲、好きなピアノ曲を聴く」という興味深い鑑賞法だった。だから、小さな美術館ではあるが、たっぷり2時間かかった。色々質問攻めで困っていると、交流員である女子美大生達の膨大な知識にすごく助けられ、まさに「餅は餅屋」で脱帽だった。

8月4日： 朝から、仁別でグランドゴルフをする。ホームステイの一夜の後は、それぞれが前より打ち解け、みんな楽しそう。私は通訳に徹していたが、グランドゴルフがこんなに老若男女問わず、大自然の中で楽しめるスポーツとは知らず、新たな発見であった。しかも、かなり遊んで300円という料金に、また驚いた。東京都内で、仁別ほどの自然に触れあいたいとなると、車を最低2時間走らせないとたどり着けないので、前回の交流時の私は、まだ東京に

住んでいなかったの、今回は秋田の素晴らしさと贅沢さを、改めて実感する2週間となった。その日は“まんたらめ”に宿泊で、「本当に熊が出るから気をつけて」という助言にびっくりし、皆「熊」という単語を一斉に覚えた(笑)。夜は、お琴の体験。パッサウ男子は正座で、女子はあぐらの子も！でも、たった1時間で、「さくらさくら」を合奏出来た。すごい集中力であった。その後は、熊を怖かったが、花火をし、グランドゴルフ場の芝生で寝転がり、皆で満天の星空を見た。とても贅沢な時間であったが、可哀想なことにSちゃんが35カ所以上、蚊に刺されたそう。

8月5日：朝から座禅体験。皆、とても真剣に座禅を組んでいた。私は添川で育ったので、補陀寺は身近なお寺であったが、入ったのは初めてで、その立派さに驚く。なんと1200年ほどの歴史を持ち、亀の化身である仙人が開いたお寺だそう。和尚様は、いつも穏やかな心持でいれるように呼吸の大切さや、辛くても努力すれば必ず道が開けるといふ説話を下さった。和尚様が質問攻めにあっていたが、ドイツの子たちの質問の奥深さには、本当に感心した。座禅の話ではないが、興味深かったのは、お寺の総代の方がドイツの東西統一についてどう思うか質問したところ、2名の団長さん以外は皆、統一後に生まれているし、何も教わっていないから全く答えられない、と返ってきたことだ。いつもあんなに質問し、論じている子たちが、この場面だけは無言でただ首をかしげており、あんな歴史に残る大事件についてほとんど知らないとは、とても意外だった。

その晩は、木こりの宿に泊まり、花火の後、玄関外の階段に皆ごちゃ混ぜになって座った。Vちゃんがギター弾き、皆で「若者たち(パッサウ側は、全員この歌を暗記していた!)」を歌った。いろんなドイツの歌をパッサウ側が披露してくれたので、日本人側はスマホで一生懸命調べて、即席で「森のくまさん」や「大きな歌」をかけあって歌い、相当盛り上がった。これぞ日独若者の交流の醍醐味!といった感じでとても感動し、胸がいっぱいになった。

8月6日：竿燈祭り見学。勿論、皆大喜びで大歓声!私は、実家に泊まっているL君に、甚平と草履を用意した。S君に、「僕もこれが着たいんだけど…」と言われたので、ホストファ

ミリーのK君(高校の同級生)にお願いしてみた。女の子も出来れば、全員浴衣を準備できないだろうか思ったが、用意できるファミリーとそうでない場合があり、仕方がないことだが難しさともどかしさを覚えた。その後、K君は親切なことに20件ほど電話し、花火大会まで準備してくれたそう。

8月7日：自由行動の日。うちは、三種町のサンドクラフト見学と海水浴にしたのだが、ここで6名のパッサウ青少年と合流した(笑)。でも、皆一緒に海に入って、本当に楽しそうだった。

8月8日：ホストファミリーとそれぞれ過ごした7日から一夜明け、また2日間の宿泊交流。朝から寒風山と男鹿水族館に行ってから、なまはげ館へ。なまはげ実演で、どんな反応を示すか興味津々だったが、「あれはホンモノじゃないから」と皆あっさり。その夜は、贅沢なことにホテルサンルーラル大湯で、フルコース料理だった。ドイツの子たちは、普通にすすい食べていく中、日本の子はどのナイフやフォークで食べるか、観察しながら食べていて、これも良い文化交流だ。食後は、野村先生ご提供のスイカで、スイカ割りをした。ルールが緩かったせいか、3人目くらいで割れてしまったが、とても喜んでくれた。私の実家から木刀を持ってきたのだが、ドイツ組は木刀でサムライの真似をそれぞれやっていると思ったら、そのうちリンボーダンスを始め、誰が一番低く通り抜けられるか、遊び始めた。日本人組も、やりたがらない子もルーカス副団長に追いかけられて全員くぐらされた(笑)



男鹿半島・入道崎にて

8月9日：田沢湖に向かう。お昼ご飯時に、ABSラジオの生放送に、何人か出演した。臆する事なく自分の考えをしっかりと話すのは、さ

すがドイツ人。それから、サイクリングをし、ゆっくりの私が「御座の石」に到着すると、なんと男女ともに着衣で嬉しそうに泳いでいる！古川さんも到着し、これは危険という事になり説明するも、皆“Warum?(なんで?)”と言う。色々考え“Hier ist die heilige Stelle!(ここは神聖なところ)”と鳥居を指さして言うと、やっと団長さんが納得し、皆に水から上がるよう促してくれた。12年前も何人かが我慢しきれずに飛び込んでいたが、後から「あんな綺麗なトルコブルー色には、飛び込まずにいられないわ！」と女子が話していた。その夜は、古川さんお勧めの素敵なログハウスレストランでピザを食べた。今までの食事の中で、一番の歓声が上がった(笑)。

たつこ荘での長い夜は、スイカ割りの第2弾と、私のアイデアで、書道体験&ドイツの交流員の名前の漢字を全員分考え、習字が出来た子たちに書いてもらった。さすが、美大生の交流員、詩的な美しい漢字を考えてくれて、その意味にドイツの子達は、大満足の様子だった。皆大事そうに持ち帰り、とても良いお土産になったと思う。たつこ荘のご主人がとても気さくで温かい方で、午前1時くらいまで皆と座り、食堂で語ってくれたのが印象的であった。私は、連日の疲れで12時前にはダウンしてしまったのだが…。

8月11日：雄物川花火大会。4日間の宿泊交流の後、打ち明け方が全然違い、通訳のお仕事ではなく、友人達と過ごしている感覚になっていた。もう次の日が、さよならパーティーとは思えない位、あっという間に時が過ぎ去った。

最後の2日間のフロアカーリングと8人制バレーボールの生涯スポーツは、楽しそうに交流していたが、このような軽いのではなく、皆本当は、がっつりとスポーツをしたかったと口々に言っていたので、もっと普通の若者向けの本格的なスポーツのプログラムも用意するのも良いのではないかと思う。

さよならパーティーは盛会であったが、もうお別れ?という感じで、本当に行ってしまうのだと実感したのは、空港でのお見送りの時だった。ほとんどのホストファミリーや関係者がデッキまで出て、飛行機が離陸して見えなくなるまで手をふり続けた。お別れは寂しいけれど、

全員同じように充実し、最高の2週間をパッサウの彼らと過ごせたのだなあと、そこに居合わせた皆さんの素敵な表情から感じ取る事が出来た。

Vielen herzlichen Dank!



田沢湖・たつこ荘にて



さよならパーティー (パークホテルにて)



「パッサウ青少年スポーツ交流に参加して」

秋田公立美術大学 2年

玉利 みゆき

平成28年8月、約2週間という期間で、パッサウ青少年スポーツ交流団の方々との交流に日本側の交流員の1人として参加させていただきました。海外の方々との交流という経験は、今までの生活のなかでもほとんど無に等しかったということもあり、交流会に参加することが非常に楽しみでした。

日本という環境下での生活や対人感覚に慣れてしまっていたということもあり、パッサウの交流員の方々と行動をともにすることに対して、特に、新鮮な感覚を覚えました。

日本に来られたのが初めての方も多くいらっしゃったようで、私たちが普段の生活のなかで見慣れているものに対して、興味津々といった様子でした。気になることがあればすぐに「これは何?」といった質問をしたり、実際にふれて想像していたものと違ったときは、驚いたり、感心したりと、表情や表現が非常に多彩で、一緒にいる私にもその感情が強く伝わってきました。また、数人の方はカメラで印象に残ったものを写真に収めて、撮ったものを私にも見せてくださいました。



秋田公立美術大学にて

今回の交流で出かけた場所や、その場でしか得られない経験をしたことなども、本当に素敵なものばかりでした。そのなかで何よりも私が感じていることは、彼らと約2週間もの期間をともに過ごすことができたという嬉しさと喜びの感情が、今現在になってもなお、最も強く印象づいているということです。

彼らは非常に友好的で、多くのものごとに興味を持ち、時には一緒にいた私たちを驚かせるような行動をしたり、冗談を言って和ませてくれたり、嬉しいことがあったときには本当に嬉しそうにしたりなど、ドイツ語も分からず、英語もたどたどしいものしか話せない私にも伝わってくるほど、彼らの感情表現は強いものでした。国が違えば言語も異なり、生活習慣や文化までもが違っていても、人が表していること、目には見えないけれど確かに感じるものには、人と人をつなぐ「何か」があるのだと、彼らと出会えたことによって知ることができました。それと同時に、今度は彼らの住む国へ行ってみたいという気持ちも強くなりました。このような気持ちになったのは、他でもなく、ともに過ごした彼らから受けた影響が大きいです。

今後、海外を訪れる機会があったときには、彼らのように他国の文化や生活などの多くのことに興味を持ち、その1つ1つの発見や出会いを大切にしていこうと思います。

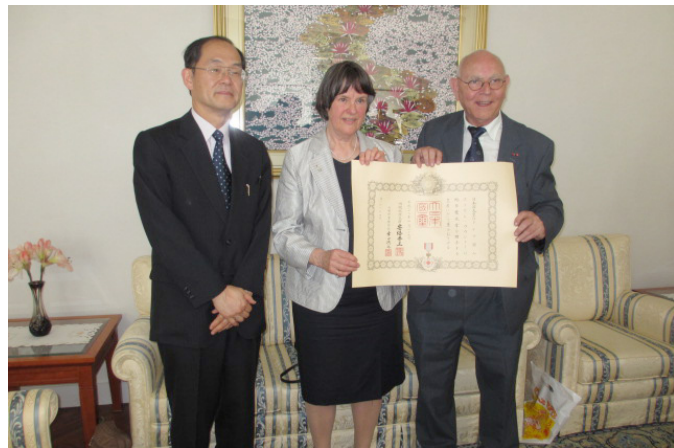


さよならパーティー（パークホテルにて）

「パッサウ独日協会ラウシャー会長叙勲」

日本国政府は、ズィビレ・ラウシャー・パッサウ独日協会会長に対し、パッサウ独日協会の活動を通じて日独交流を促進した多大な功績を称え、“旭日双光章”を授与することを決定（2016年4月20日付）。叙勲式が、6月25日に、ミュンヘン領事館公邸にて開催されました。

ラウシャー会長は、軽井沢生まれです。パッサウ独日協会の設立や秋田市との姉妹都市提携後の数多くの交流事業において第一線で多大な貢献をされました。2002年に会長職就任後は、120近くの日本関連行事に関わり、一般市民が日本文化・芸術などに直接触れることができる機会を企画し、草の根レベルの文化交流活動を主導してきました。パッサウ市が南ドイツにおける日本文化事業の重要な拠点の一つとなる土台を築き、日本とパッサウ市の相互理解及び友好親善の促進に重要な役割を果たしたことに對して顕彰されました。



ミュンヘン領事館公邸での叙勲式の様子

~~~~~

ドイツ語で格言・諺: Kunst und Lehre gibt Gunst und Ehre. 芸術と教育は恩恵と尊敬を与える

### 《編集後記》

今回は昨年夏に来秋した「パッサウ市青少年スポーツ交流団」訪問の様子を中心にお届けしました。個人レベルでの旅行などでは決して体験することのできない異文化交流になったと思います。秋田に居ながらこうした濃密な時間を過ごせたことは大きな財産になったことでしょう。この先10年20年と続いていくであろう新たな市民交流の始まりを感慨深く思います。

会員の皆さんからの寄稿やメッセージ、そして、ドイツに関する話題などを広く募集します。送り先は、表紙の事務局の住所へ、または、メールにてお送りください。

秋田日独協会ホームページ <http://www.jdg-akita.org>

### 法人会員

(株)秋田魁新報社様・(株)JTB 東北秋田支店様・日本エアサービス秋田営業所様・(株)日本旅行東北秋田支店様